

目 次

はじめに

参考文献の表示について

第 I 部 政治学入門——キーワードと考え方

👑 まず見てみたいウェブサイト

📖 政治・政治学を学ぶための事典・辞典

👑 政治ニュースの調べ方

1. 政治、政治学 ————— 6
 1. 政治とは何だろう
 2. 政治、経済、文化のメカニズムはどう違うか
 3. 政治、政治学は何に役立つか
2. 権力、影響力、権威 ————— 8
 1. 権力または影響力
 2. 誰が、なぜ影響力を持つのか
 3. 権威のいくつかの源泉
3. 国家の必要性とリスク ————— 11
 1. 国家とは何か
 2. 国家の機能と必要性
 3. 20世紀の独裁政治の教訓
 4. 国家の暴走を防ぐしくみ
4. 立憲主義、政府機構 ————— 14
 1. 憲法と立憲主義
 2. 立法、行政、司法
 3. 地方自治
5. 政治参加、政党、有権者 ————— 17
 1. 政治参加にはどんな条件が必要か
 2. 政党、利益団体の役割と問題点
 3. 人々の政治意識と棄権
 4. ポピュリズム（扇動政治）
6. 民主主義、保守とリベラル ————— 19
 1. 政治体制の古典的な分類
 2. 民主主義の宣言、拡大、崩

壊事例	3. 民主主義の多面的な定義へ	4. 多元性のための の対抗軸——政治の「右と左」、保守とリベラル	
7.	公共性、政治的リーダーシップ		22
	1. 公共性と「既得権」	2. 公共性とは国家の利益か、社会 の利益か	
	3. 政治的統合とリーダーシップ		
8.	国際関係、国際政治		25
	1. 多面的な国際関係	2. 国際政治史から学ぶ	
	3. 国際政治の複数のモデル	4. グローバリゼーション	
9.	戦争と平和		28
	1. 戦争の原因	2. 戦争の種類	3. 戦争をどう防ぐか
10.	安全保障と軍勢力		31
	1. さまざまな安全保障	2. 憲法9条と自衛隊	3. 日米 安全保障条約と自衛隊

第Ⅱ部 日本政治の基礎知識

1章 政府と国会 39

政府の役割——経済システムを補い修正する 国や政府が問題
を起こすこともある——政府の両義性 立憲主義と国民主権
権力分立 最高機関としての国会 国会の権限 二院制と
衆議院の優越 明治憲法（大日本帝国憲法） 日本国憲法
日本国憲法のもとでの政治の展開 意思決定——変化と合理性

2章 政党・選挙と政治参加 56

政党の定義、役割、分類 政党システム（政党制） 日本の
政党システム 選挙制度の種類と長所・短所 衆議院選挙の
並立制 18歳選挙権と政治学（主権者）教育 政治参加

投票行動はどのように決まるか 政治的無関心、棄権
 無党派層と政党衰退論 棄権の政治的「効果」 デモ、内閣
 支持率、「日本会議」 市民社会と大衆社会 政治的情報の流れ
 マスコミとインターネット 政府のマスコミへの関与
 利益団体

3章 内閣と行政 77

行政の活動と組織 内閣と議院内閣制 政府と行政の規模
 ——赤字財政の原因は？ 公務員・官僚の膨張、待遇への批判
 行政の権力の源泉——官僚制の理論 行政の2つの仕事
 政策の執行——行政の裁量をどう統制するか 政策の立案・決
 定——官僚優位から政治主導へ 首相・与党と官僚の関係
 官邸主導 首相のリーダーシップ——2000年代 首相のリー
 ダーシップ——2010年代 アクターの協力、ガバナンス
 行政改革——有効性、民主性と説明責任 行政改革——効率性
 と小さな政府

4章 地方自治 96

地方自治の定義と役割 日本での略史 自治体の種類と2層
 制 市町村合併、道州制、大阪「都」構想 団体自治——法
 的な中央地方関係 団体自治——財政的な中央地方関係 住
 民自治——長、議会とその選挙 地方議会の改革 住民自治
 ——市民の多様な政治参加 住民投票における熟議と扇動
 NPO、足による投票

5章 政治の理念と座標軸 113

政治を理解するための座標軸 政治的立場の左派と右派
 現代日本政治の座標軸——保守とリベラル 論点（1）——
 大きな政府か小さな政府か 論点（2）——多元主義か権威主

義か 2つの軸の相互関係 保守とリベラルの社会的基盤
「改革か、既得権か」 「変化か、現状か」 「強いか、弱いか」
または「タカ派、ハト派」 ナショナリズム 昭和の戦争を
めぐる議論

第Ⅲ部 民主主義とポピュリズム

6章 民主主義——なぜ、多数決だけではダメなのか—— 139

近代民主主義の展開——18～19世紀 近代民主主義の展開——
20世紀 民主主義の4つの構成要素・理念 民主主義の要素
(1) ——多数者による支配 要素(2) ——多元主義、自由
主義 要素(3) ——参加型民主主義 要素(4) ——熟議
民主主義 4つの要素の関連、民主主義の類型化 日本は多
元的な民主主義を維持できるか 民主主義の存立条件と評価

7章 ポピュリズム——なぜ、単純化と攻撃性で集票できるのか—— 157

2つの日本語訳——「迎合」か「扇動」か おもな構成要素に
もとづく定義——構造、アピール、支持 日本での事例(1)
——小泉首相、ポピュリズム型首長 日本での事例(2) ——
橋下大阪市長と「維新」 欧米の事例 実証的研究(1) ——
単純化(ウソ)と攻撃性 実証的研究(2) ——支持者とその
意識 台頭の背景 ポピュリズムと民主主義の関係
ポピュリズムへの擁護と批判 対抗策は？

8章 日本の選挙と政党システム——なぜ、リベラルは保守より弱いのか—— 176

「1955年体制」とその変動 自民党の1党優位制とその原因
衆議院への小選挙区制の導入 小選挙区制の政党システムに対

する影響 比例代表制の政党システムに対する影響 政党得票率による分析 小泉政権と「強い首相」 政権交代——民主党政権の失敗と成果 2012年衆議院選挙——自民党が政権奪還 2013年参議院選挙——自民の「1強多弱」へ 2014年衆議院選挙——超早期解散の真意と妥当性は？ 2016年参議院選挙——自民・維新・公明の「改憲派」が両院で3分の2に 2017年衆議院選挙——リベラル政党への解体作戦 投票行動モデルの精緻化を 政党システムの国際比較 自民党1党優位制の復活か？ 望ましい政党システムとは？ 日本のリベラル勢力の展望 自民党——安倍政権の統治・宣伝の技術 公明党、維新——自民への直接および間接協力と独自性 民進党（民主党）——党運営の課題 共産党、社民党——中道左派の存続と役割 野党の存在理由 教育とマスコミの責任

第IV部 憲法と統治機構をめぐる議論

9章 改憲（憲法改正）——争点と政治過程—— 211

日本国憲法の制定過程 制定過程の解釈 改憲論の実質的な目的——集団的自衛権、基本的人権の制限など 改憲の手続き——国際比較では「硬性憲法」が多い 96条改正論 「一方的改憲」はなぜ悪いのか 「合意型改憲」のための対抗策

【資料A】 首相公選、議員定数、二院制—— 225

【資料B】 道州制—— 232

あとがき
 新版 あとがき
 索引